

深めよう、子どもとの絆

～こんどは、何をするの？～

みやこ町教育委員会生涯学習課 地域活動指導員 中村 誠一

- ① 事業名 「子ども教室」「公民館まつり in 子どもフェスタ」
② 目的 公民館と地域との繋がりを深め、子ども達が体験活動を通じて自ら考え、工夫する力を育むことをねらいとしました。

- ③ 事業の実施主体
みやこ町教育委員会 生涯学習課

- ④ 連携協力団体
各小学校、西日本工業大学青年リーダー、犀川婦人会、地域の賛同者

- ⑤ 事業予算
- | | | |
|--------|------|-----------------------|
| 子ども教室 | 材料費 | 10,000 円×4 回=40,000 円 |
| 公民館まつり | 材料費 | 50,000 円 |
| | 講師謝金 | 50,000 円 |

- ⑥ 実施に至る経緯
みやこ町の小学校の児童は、平成24年度が1027名、平成26年度は1003名と二桁の勢いで減少しております。ますます子ども達が孤立し、地域社会や子ども同士の結びつきも薄れてしまうのではないかと危惧しています。このような時こそ地域の団体や住民と連携を深め公民館としての役割を果たし、子どもとの絆を深めていかねばならないと思います。

- ⑦ プログラム作成の視点
体験教室をとおして、参加した子ども達から、「こんどは、何をするの」と言ってもらえるような、絆を深める関係を築き上げる。

- ⑧ 現状分析（分析1, 2, 3）
1) 小学校の児童数の減少
*平成24年度、1027名 平成26年度1001名 2ケタの減
2) 子ども取り巻く環境
3) 体験教室の業務
*企画から実施までに係る工数が多い

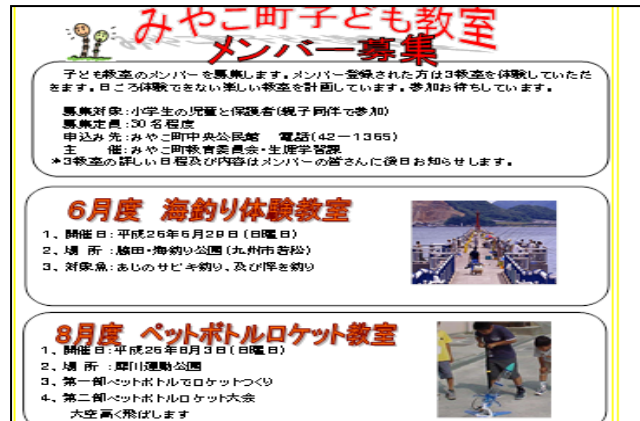
企画	企画書作成
立案	要項作成、チラシ作り、広報
準備	現地調査、材料購入、加工、前日準備
▼実施	指導、段取り、かたづけ

⑨ 改善策（改善策 1, 2, 3）

- 1) 指導員の取り組み方の見直し。
- 2) 子どもを引き付ける魅力的な体験教室を目指す。
- 3) 他の事業への積極的参加。

⑩ 実践（実践 1, 2, 3）

- 1) 子ども教室メンバー登録。参加者をあらかじめ集約する。



- 2) 体験教室の質の向上。低学年、高学年とで指導を変える。失敗を教える。

同じ体験教室でも、
 *低学年に体験させる範囲
 *高学年に体験させる範囲
 ①体験させる組み分けをする。
 ②出来ない子どもには一緒につくる。
 ③なぜ、出来ないか教える。
 ④完成した実感を味わう。

- 3) 指導員同士の年間事業計画作成と活用。交流を深める。

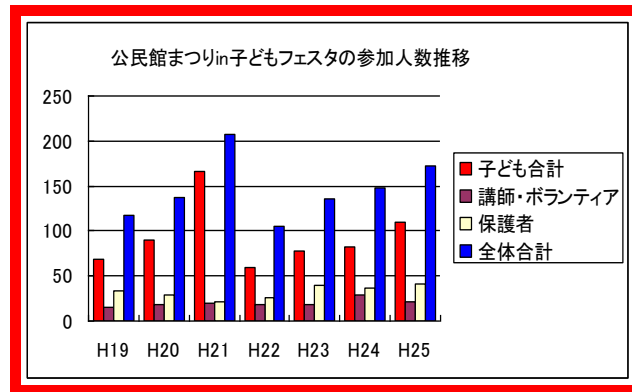
月度	事業名	内容	主担当
4月	4月18日 育成会理事会	新役員体制新年度事業計画	両名
	4月25日 育成会総会	総会	両名
5月	5月30日 地域活動指導員設置事業	県、社会総合センター	両名
5月	5月13日 育成会理事会	ソフトウェア要項説明	中村
	5月11日 ふれあいスポーツ	9:30~11:30 藤山体育館	両名
	5月 アンビジャス広場(土曜日)		井村
	5月 アンビジャス広場(平日)		井村
	6月1日 ふれあいスポーツ	9:30~11:30 藤山体育館	両名
6月2日 子ども教室 ペットボトルロケット大会	厚川運動公園	両名	
6月17日 育成会理事会	ソフトウェア監督会議資料提出	両名	
6月20日 8月度子ども教室アウトドア体験事前打合せ	蛇淵キャンプ場へ	両名	

⑪ 事業の成果（成果 1, 2, 3）

- 1) 成果 - 1 *体験教室参加者数が安定。複数の教室への参加者が増えた。

NO	児童名	学年	ロケット大会	海釣り体験	アウトドア体験	陶芸教室	うどん打ち体験	門松づくり
1	井上	6	◎	◎		◎	◎	
2	井上	2	◎	◎		◎	◎	
3	中原	5	◎	◎		◎	◎	
4	中原	1	◎	◎		◎	◎	
5	田中	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	村田	3	◎	◎	◎	◎	◎	
7	村田	3	◎	◎	◎	◎	◎	
8	吉田	5	◎	◎	◎	◎	◎	
16	森田	2	◎	◎		◎	◎	
17	米須	2	◎	◎		◎	◎	
18	柿野	男	◎	◎	◎	◎	◎	
19	柿野	女	◎	◎	◎	◎	◎	
20	村田	4	◎	◎	◎	◎	◎	
21	村田	4	◎	◎	◎	◎	◎	
22	比江島	1	◎	◎		◎	◎	
23	比江島	2	◎	◎		◎	◎	
24	高岩	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎

* 公民館まつりの参加数が目標の 100 名を昨年度超えた。



- 2) 成果 - 2 地域の方々との繋がりが深まった。
3) 成果 - 3 参加した子どもや親から、「こんどは、何をするの」と頼もしい声が上がってきた。
指導員と子ども達の距離も近くなり絆も深まってきた。



⑫ 課題

今回の取り組みは、新しく事業を行ったことではなく、今行っている内容を指導員の立場から子どもの立場から改善を重ねたものです。
「絆づくり」をしっかりとしなければ、体験教室は成り立たないと実感しました。
今度の経験を忘れずに、子ども達にたくさんの経験を積んでもらい、豊かな子どもに成長する手助けをしてゆきたいと思います。

問い合わせ先 〒824-0231 福岡県京都郡みやこ町犀川本庄641番地1
みやこ町中央公民館 電話 0930-42-1365